

出雲の国 2 デーウオーク遠征記

松井 慎一郎

毎年5月のゴールデンウィークに行われるこの大会に参加しようかどうかずっと迷っていた。

と、いうのも J R ジパング倶楽部の割引が適用されないため、費用面で二の足を踏んでいたから。

ところが、たまたま大阪の叔母を尋ねる要件ができたので、これ幸いと妻を説得してキップを購入した。

出雲大社へは式年遷宮で7年前に訪れたことがあるが、神話の地出雲地区には興味があった。

5月2日あいの風ライナーで金沢へ、サンダーバード、山陽新幹線、伯備線と乗り継いで出雲市駅へ。

朝7時に滑川駅で乗車して午後4時過ぎの到着。接続の待ち時間を入れて9時間あまりの大旅行だった。

伯備線の特急が「やくも」の愛称とは神話の国を走るにふさわしいものと思った。



5月3日

斐川町一周 42.195 キロウオーク。

朝6時ホテル出発。出雲市駅よりシャトルバスありとのことだったが、それらしきバスが見当たらない。

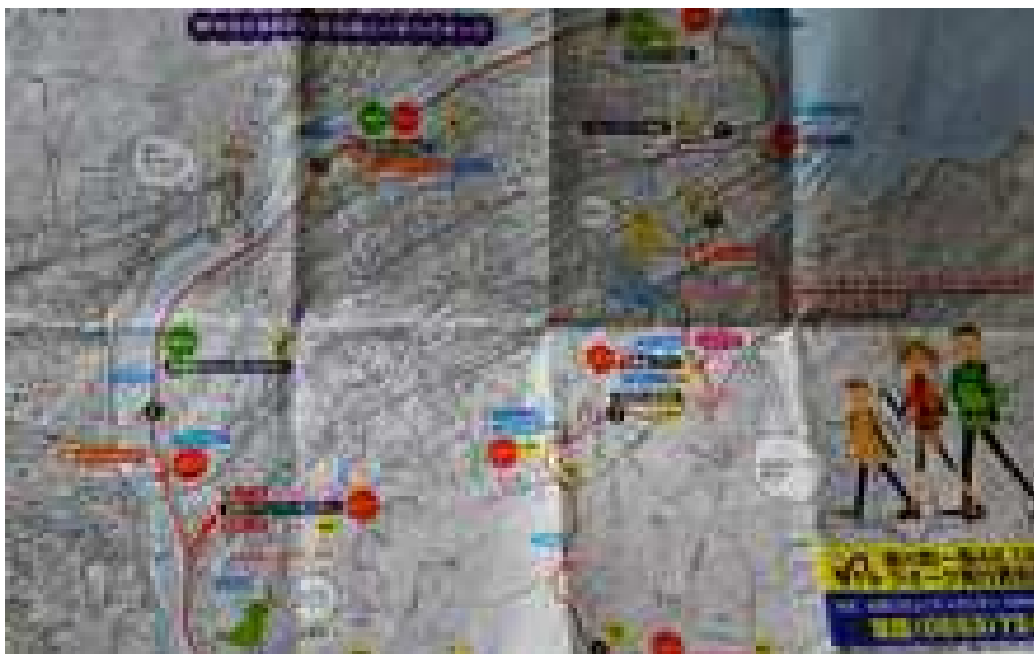
駅の反対側でようやく案内ボランティアを見つけてバスまで案内してもらった。

バスは送迎用マイクロバスで15名も乗れば満員だった。

スタート会場には6時40分に到着。

受付を済ませ、寒さをしのぐため体育館に行ったら、当会会員の〇〇さんがいたのにはびっくりした。

このコースはマラソンと同じ距離を歩く。



途中のチェックポイントでリタイアすることも出来たが、せっかくここまできたのだから完歩目ざして頑張ろうと思った。

セレモニーも終り 8 時にスタート。ゴールとなる体育館入口に時計がおいてあり、個人個人のタイムを完歩賞に記入してくれる。

別に 1 番早くなくてもいいのだが、タイムが記入されるのを知って、すこしでも早く歩きたいなと思った。

最初の 10 キロぐらいは斐川を上流へ遡る。

途中で地元大学の男性グループを追い抜いた。

ゼッケンに沖縄県とか北海道と書いてある。

話してる言葉を聞いているとなんかおかしい。

(ほんとに沖縄?)と尋ねると「すみません 冗談で書きました。全員地元です」と謝った。

その中の一人の名前が錦織となっていたのでケイ君の親戚かと問うと「ここらあたりは錦織の名前がいっぱいあります」とのことであつた。

ちょっと昇りのきつい武部峠をすぎると豚汁のもてなしがあつた。

朝、市長の挨拶にこの大会にはいろんなもてなしがあるので期待してくださいとのことであつたが、各給水所やチェックポイントでのもてなしは、なかなかよかった。

出雲空港の滑走路横を歩き、用水路の水門先で地元のしじみ汁がふるまわれた。

持参のおにぎりと一緒に食す。おいしいのだが川風があまりにも強く、テーブルにおいたカップがふきとばされ、もう一杯もらうはめになってしまった。

地元の人に聞くとここは風が強いらしい。これから先の斐川河口から上流への堤防上はもっと強いですと教えてくれた。

斐川河口のチェックポイントは 28 キロ地点。ここで係の人から、かなり風が強いけど行きますかと尋ねられる。

せっかくここまで歩いたのになんでやめられよう。

接待のポカ리를一本もらい歩を進めた。

100 歩も行かない先で猛烈な横風、堤防上の道路の右端から左端まで飛ばされる。

何とか踏みとどまり先へと進んだ。40 キロまでこの風に悩まされながらもなんとかゴールイン。

タイムは7時間7分だった。

出雲市駅までのシャトルバスは4時からとのこと。ゴールした2・3人でゴール横で待っていると係の方のライトバンで送ってもらえることになり、3時半にホテルに戻れた。



5月4日

7時過ぎホテルを出発。結構寒い。

市役所横の会場で待っている間寒いので、レインウェアを着用して防寒した。

用水路脇の遊歩道を2キロほど進む。

距離別に3コースあるが、全員同時スタートだったので、なかなか前に出ることができない。

コース分岐点までゆっくりと歩く。

途中で当会会員の松井敏夫さんを追い抜く。

松井（敏）さんは山陰マスターウォーカーの表彰を今回受けておられた。

旧JR出雲大社駅より1キロ手前ぐらいから出雲大社臨時駐車場に向かう車で数珠つなぎの渋滞となっていた。

廃止となった出雲大社駅舎にもたくさんの観光客がいた。



神門通りは車両乗り入れ禁止で歩行者天国のようであり、一畑電鉄出雲大社前駅のあたりは京都嵐山の嵐電駅前のように 트렌ディなショップが並び、若者であふれていた。

出雲大社の鳥居から手水場まで長い行列が続いており、神楽殿・本殿までどれくらいの時間がかかるのか予想もできなかった。



手水場のかなり手前で右折して、博物館前を通り、しばらく天平古道を歩く。

島根ワイナリー前のチェックポイントには13キロコースまでの参加者がゴールに向かうシャトルバスを待っていた。

ここからはゴールまで7キロ。ただひたすら歩いた。

朝出発した市役所庁舎が遠目にもわかれるとさらにスピードを上げてゴールに到着。

気づかなかったがこの日も時計が設置しており、完歩賞に所要時間を記入してくれた。

30キロ4時間54分、はじめて6時間を切れた。2日間で73キロ弱、いい思い出となった。

終